

# 共創 Innovation

**目指す姿** 地域を支え、明るい未来を創造するコンサルティングバンク

**計画期間** 2021年4月～2024年3月(3年間)

● **重点戦略：4つのイノベーション**



● **計数目標**

法人ソリューション成約件数	<b>1,300件</b>	(3年間累計)
行内プロフェッショナル人財	<b>110人</b>	(23年度末)
コアOHR	<b>84%程度</b>	(23年度)
コア業務純益	<b>17億円</b>	(23年度)

● **基盤戦略**

- 人財強化**  
やりがいに満ち溢れ、  
挑戦し続けるプロフェッショナル人財を育成
- 生産性向上**  
選択と集中により  
生産性向上を図りベース収益力を強化

● **ごあいさつ**

平素より私ども鳥取銀行に対しまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、2021年9月期の決算概要や最近の取り組みなどについて紹介する「とりぎん通信／2021中間期ミニディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ご高覧の上、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

さて、今年度上半期は、東京オリンピック・パラリンピックの開催といった明るいニュースがあった一方で、新型コロナウイルスの感染拡大(第5波)を受けた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出等に伴う経済活動の抑制もあり、厳しい状況が続きました。しかしながら、幅広い世代にワクチン接種が進んだことで、感染症対策の効果も見え始めており、今後、景気の持ち直しが期待されています。

金融市場に目を向けますと、日経平均株価は新型コロナ新規感染者数に影響を受けながら低下トレンドで推移したものの、海外経済の回復や国内経済正常化への期待感を背景に、9月には一時30,000円台まで回復しました。

このような環境の下、当行は2021年4月より中期経営計画「共創Innovation」をスタートしております。本計画では、当行の経営の基本理念である「地域社会への貢献と健全経営」の考え方のもと、重点戦略として掲げた4つのイノベーションに取り組むことで、新型コロナウイルスという困難を乗り越え、明るく持続可能な社会を創造してまいります。



取締役頭取  
**平井 耕司**

また、各施策を実現するための基盤戦略として、「人財強化」と「生産性向上」にも取り組み、「地域を支え、明るい未来を創造するコンサルティングバンク」を目指してまいります。

今後とも皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう全従業員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月